

# 第2回野田市鈴木貫太郎記念館建設準備委員会

日 時 令和5年5月25日(木)  
午前10時00分から  
場 所 市役所低層棟4階 委員会室

## 次 第

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 委員の紹介
- 4 議事
  - (1)鈴木貫太郎記念館の再建に向けた課題の整理について
  - (2)その他
- 5 閉会

## 鈴木貫太郎記念館の再建に向けた課題の整理について

令和5年2月21日に開催した第1回野田市鈴木貫太郎記念館建設準備委員会において説明した9項目の課題のうち、「記念館の法的位置づけ」及び「市民への周知と市民の協力」の2項目について次のとおり考え方等を整理した。

### 1 記念館の法的位置づけ

#### < 課題 >

博物館の法的な登録を受けるには、博物館法第11条の規定に基づき、千葉県教育委員会の登録を受ける必要があるが、登録を受けるためには、「学芸員その他の職員の配置」、「博物館資料の収集、調査研究等を行う体制」等について千葉県教育委員会の基準を満たさなければならないが、現在の記念館はこの基準を満たしておらず、法的には、博物館類似施設となっている。

野田市総合計画が掲げる施策『鈴木貫太郎翁の功績を後世に伝える』を実現するには、博物館法に基づく登録博物館とする必要があると考えており、まず、この点を整理する必要がある。

#### < 考え方 >

現在、記念館は臨時休館中であるが、建て替えに至る経緯のとおり耐震性能の不足に加え、展示室及び展示ケースは、遮光、防虫、防菌、温湿度を調整する設備が整っておらず、収蔵庫も設置されていないため、所管の資料が適切に管理できない環境にあるとともに、他館から資料を借用する上で障壁となっている。

また、人員体制についても、シルバー人材センターによる施設管理や副館長による来館者への対応や解説を行っているが、館長及び学芸員が配置されていないため、建物、管理運営において、十分な施設とまでは言えず、残念ながら記念館としての魅力に欠けていることは否めない。

この度の記念館の再建に当たっては、鈴木貫太郎翁の生涯と功績を通じて、郷土の歴史や文化、伝統への誇りと愛着を醸成するとともに、野田市の観光拠点として、例えば、収蔵資料の情報発信の強化、体験型の展示、ミュージアムショップや市の観光情報コーナー等を設置することで魅力を発信し、市内外からたくさんの人々に繰り返し来館していただく記念館としなけ

ればならない。コロナ禍前の入館者数は、年間約 5,000 人程度であったところ、再建後にあっては、周辺の観光資源と協働しながら、年間約 60,000 人の入館者を数えられる記念館を目指す。

そのためには、集客に適した建物の構造、適切な展示環境、収蔵庫を設置するなど、今まで以上に安定的・継続的に資料の収集、保管、調査研究、展示並びに資料の活用を行うことができるよう整備し、さらに、記念館事業を行う館長及び学芸員の配置、事務管理にかかる職員等の職員体制を整備することにより、多くの人を訪れる魅力的な記念館へと変えることができる。

以上のことを踏まえると、再建する記念館は、自ずと博物館法に定める登録博物館の基準を満たすことになることから、新記念館は登録博物館として位置付けるものとする。

### 【別途参考資料】新記念館のイメージ

※委員会当日に配布させていただきます。

## 2 市民への周知と市民の協力

### <課題>

鈴木貫太郎翁については、関宿地区ではある程度周知されているが、旧野田地区では、知らない市民が多数の状況である。

小中学校では、道徳の授業の他に、令和5年度からは、小学6年社会、中学2年歴史の授業において、副教本による授業を実施し、公民館等でも講座等を実施しているが、これらをさらに強化し、再建後も含めて、市民の協力と参加の機運を醸成していく必要がある。

### <考え方>

再建する記念館は、登録博物館として適切な展示環境及び収蔵庫、運営体制を兼ね備え、開館後も安定的な記念館運営を持続していくためには、相当な費用が必要になると見込まれる。これに対し、国等の補助や再建基金、寄附、クラウドファンディングを活用したとしても、市の一般財源からの財政支出は避けられないことが予想される。

そのため、記念館再建に向け、市民の理解と協力が必要不可欠となる。

学校での授業や公民館での講座、イベントなどを通じて、鈴木貫太郎翁の生涯や功績の更なる周知に加えて、新たに観光拠点として記念館が果たす役割や期待される効果に言及することにより、記念館再建の意義を広く周知し、野田市全体として再建が切望されるような機運を高めていく。

また、ワークショップを設け、開館後も継続的に記念館に関わる市民を育成するとともに、地域や多様な主体とつながりながら市民の誇りとなる記念館としていく。

【参考】ホームページの更新（令和5年5月2日更新）

○鈴木貫太郎記念館の再建に向けて

○展示の案内

・ 絵画

「日清戦争威海衛海戦」、「2. 26事件鈴木侍従長遭難」、「8月9日の御前会議」、「最後の御前会議」

・ 書、掛け軸など

「天空海闊」、「為萬世開太平」、「正直に腹を立てず撓まず励め」

・ 装飾品、愛用の品

「勲章（金鷄勲章、瑞宝章、旭日桐花大綬章）」、「シガレットケース」、「懐中時計」

・文書、文献

「鈴木貫太郎日記（戦後、昭和21年から昭和23年にかけて）」、「鈴木貫太郎辞令（内閣総理大臣辞任時の辞令書）」、「吉田茂発 鈴木貫太郎宛書簡」

・写真、映像

「鈴木貫太郎夫妻写真」、「関宿時代の鈴木貫太郎翁」、「関宿時代のタカ夫人」、「タカ夫人の証言「二・二六事件」」

・学芸員の部屋

「作文集「がんばれ総理」東葛飾の偉人鈴木貫太郎」